

嘉麻市社協だより

# えがお

No.115

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

〒820-0205 嘉麻市岩崎1143番地3 稲築住民センター内

TEL 0948-42-0751 <http://kama.syakyo.com>

FAX 0948-83-8005 [info@kama.syakyo.com](mailto:info@kama.syakyo.com)

<https://www.facebook.com/kama.swc>

発行日/2015.9.1



## 国立療養所菊池恵楓園での フィールドワーク

第5回

支えあいのまちづくり  
サポーター養成講座



～法人設立10周年記念事業 支えあいのまちづくりサポーター養成講座～



言葉の立ち位置を考えて  
歴史を見つめなおす

7月31日(金)、夢サイトかほで第4回支えあいのまちづくりサポーター養成講座を開催しました。今回は詩人のアーサー・ビナードさんを講師に、「夏の線引き」というテーマで、平和の大切さ、歴史を見つめなおすこと等について話を伺いました。

言葉のレンズをかけかえる

私は、大学時代に日本語と出会い、興味を持ちました。英語しか知らない私は、日本語を見たとき、漢字、ひらがな、カタカナが混在していることをとても不思議に思いました。しかし卒業後に日本に移り住んで、勉強を続けていくうちに、その多様性を理解することができました。

私たちは、まるでメガネをかけているように、言葉というレンズをとおして、現実の世界を見ています。日本人は日本語のレンズで、アメリカ人は英語のレンズで世界を見ているのです。そしてそのレンズをかけかえることによって、違うものが見えてくることに気づきました。これまでの歴史を日本語のレンズをとおすと、これまで見えなかった様々なことが見えてきました。

ピカドンという言葉との  
出会い

今から18年前の8月、広島で原爆を体験した方から話を伺いました。その方の話の中には、「原爆」という言葉は出てこず、「ピカドン」という言葉を用いられていました。そこで、原爆や原子爆弾、核兵器は、開発者や使用する側の言葉であり、「ピカドン」は被爆した方たちから生まれた言葉

であることに気づきました。そして、私はこの「ピカドン」という言葉を使ってみて、自分の立ち位置が変わることを実感しました。

原爆が投下された直後の様子を表す「マッシュルームクラウド(きのこ雲)」もまた、体験者からは出てきません。これは投下した側の戦闘機など離れた場所から見えたものであり、立ち位置は遠い所にあります。つまり、どういふ言葉を選択して使うかによって、どの立ち位置から物事を見ようとしているのかで全く異なってくるのです。すべての言葉に立ち位置があること、そして、そのことを考えて言葉を使うか否かで、相手に寄り添ったり、逆に相手を遠ざけてしまうことなど、「ピカドン」という言葉から私はたくさんのごとを学びました。

自分の立ち位置を考える

私にとって、原爆で被爆された方たちの体験や思いが自分の足場になっています。重要なのは、その体験を自分の体験、問題として引き受けることができるかどうかだと思います。上から視線であったり、自分の立ち位置が違ふところにあつて語ってしまうと違和感が生まれてきます。自分がどこに立って見つめようとするのか、その道具として言葉が必要なのだと思います。



8月6日(広島)と  
9日(長崎)の線引き

自分がどこに立っているかを考えて言葉を使うと、様々なことに気づきます。私は、8月6日の広島と8月9日の長崎のことを「ピカドン」が落とされた日」という枠で一緒に捉えるのではなく、線を引いて考えてみました。すると、広島に投下されたのは天然のウランによって作られたものであるのに対し、長崎に投下されたのは開発されて間もない人工のプルトニウムを使用したものであることなど、様々な事実が炙り出され、思いを巡らせることができず。8月6日と9日の間に線を引いて、言葉の立ち位置を考えてみてください。新たな気づきが出てくるかもしれません。

# 市民後見人を目指して

## フォローアップ講座

6月10日から7月28日まで、平成27年度市民後見人養成フォローアップ講座を開催し、基礎講座を修了した11名が、6日間の講座と施設での実習を終えました。

基礎講座での学びをさらに深めるために、各講師の方から話を伺い、必要な法律の知識や人権、「支援」とは何かといったこと等を学習しました。

施設実習は、特別養護老人ホーム第二稲穂園、自立支援センターつすい、障害者支援施設三愛園に行きました。説明を受けて見学させていただきました。利用者の方とコミュニケーションをとり、受講者のみなさん



真剣に事例を考えました。

んは、「実際の現場で学ぶことができ、とても勉強になった」と話されました。

グループワークでは支援計画を作ったり、ゲームをおしりて物事を多方面から多角的に考えることの大切さを学んだりと、たくさんの方が話ま

た講座となりました。

最終日には、受講者のみなさんが「この講座で終わりにするのではなく、まずは私たちがつながりましょう」と話をされていて、この講座がこれらにつながると大きな一歩となりました。支えあいのまちづくりに向けて、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと思



それぞれの施設で説明をしていただき、より学びが深まりました。

# 平成27年度 第3期市民後見人養成講座の受講者募集

本会では、新たな社会貢献のかたちである市民後見人を養成することをつうじて、地域における支え合いの輪を広げていくことを目的に、本講座を開催します。

### 【期間】

平成27年11月27日～平成28年2月23日の計12日30回(予定)13時～  
※市民フォーラムへの参加もあります。

### 【会場】

稲築住民センター



### 【募集期間】

平成27年9月16日～10月30日(当日消印有効)

### 【受講料】

2,500円(開講式当日に徴収します)

【申込書の配布】9月16日から社協事務所に準備します。また、本会のホームページからも申込書をダウンロードできます。

### 【受講申し込み】

申込書に必要事項を記入の上、募集期間内に事務局まで持参又は郵送、FAXしてください。受講の可否については、文書で通知します。

# 国立療養所菊池恵楓園での

## フィールドワーク

8月3日(月)、10名の市民のみなさんと、国立療養所菊池恵楓園(熊本県合志市)に伺いました。午前中は、杉野芳武さん、桂子さんと夫婦の話を聞きました。ハン

セン病は、ほとんどうつることのない弱い感染症ですが、誤った理解から、国は強制施策で患者を療養所へ隔離し、治療法が確立された後もその政策は続けられました。

芳武さんは、11歳で病気がわかり、治したい一心で療養所に入所されました。しかし、治療らしい事は何もなく、死ぬまでこの場所で生活していかなければならないという現実が待っていました。子をもつ母として、親子が突然離れて暮らさなければならなくなった心情を思うと、胸が締めつけられました。

杉野さんと夫婦は、らい予防法廃止運動にも参加されました。桂子さんは、「入所者の高齢化が進み、ハンセン病の歴史を伝える人が減っている。だからこそ、ハンセン病を正しく理解してほしい」と話されました。参加した方は、お二人が歩んでこられた人生に思いを馳せながら、「ハンセン病につ

いて学んだことを正しく伝えていきたい」「差別や偏見をなくしていきたい」との思いを強くされたようです。

午後からは、旧監禁室や火葬場跡地、納骨堂、資料館を見学し、ハンセン病差別の歴史を学びました。誤った理解が偏見を生み、国策として人の権利やいのちを奪ってきた歴史があることを肌身で感じる一日となりました。

ハンセン病問題を考えることは、みんなで支えるまちづくりを進めていく上でとても大切だと考えています。第7回の講座には、杉野桂子さんをお招きします。貴重な話を伺える機会ですので、ぜひ、ご参加ください。

### 第7回支えあいのまちづくりサポーター養成講座のご案内

【日時】平成27年10月14日(水)

13時30分～15時30分

【場所】稲築地区公民館

【内容】ハンセン病差別

の中で生きて

講師 菊池野編集長

杉野桂子氏

# かま障がい者地域生活支援センターのご案内

センターでは、障がいを持つ方の地域生活の中での相談の受け付け、居場所づくりを行っています。居場所の一つとして、障がい児日中一時支援事業を実施しています。学校の放課後や長期休暇期間を充実して過ごせる場を提供し、季節の行事やボランティアとのふれあいをつうじて楽しい時間を過ごしています。利用に際しては、事前の見学もできますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先 TEL 0948-42-0751



8月8日(土)、嘉麻北日中一時支援事業所で夏の交流会を開催し、7組23名の方が参加されました。全員自己紹介をし、スタッフ特製のカレーやフライドポテト、白玉団子などの出店で、自由に食事を楽しんでもらいました。フリーマーケットや写真展も行ったほか、ヨーヨー釣りは特に人気で、みんなたくさん手にとって嬉しそうにお父さん、お母さんに見せているのが印象的でした。また、月に2回取り組んでい

楽しんだ夏のひととき  
日中一時支援事業 交流会

る音楽の時間のことをみなさんに紹介し、講師の山戸理恵子さんのヴィオリラの演奏を聴きました。美しい音色に癒された後は、ピアノに合わせてみんなで合奏したり、歌ったり踊ったりして盛り上がり、楽しい夏ができました。



る音楽の時間のことをみなさんに紹介し、講師の山戸理恵子さんのヴィオリラの演奏を聴きました。美しい音色に癒された後は、ピアノに合わせてみんなで合奏したり、歌ったり踊ったりして盛り上がり、楽しい夏ができました。



## 出前講座のご案内

嘉麻市社会福祉協議会では、地域の集まりやサロンに伺い、出前講座を行っています。日時につきましては、相談に応じます。土日祝日もお伺いしますので、気軽にお声掛けください。

### 講座の内容

- ①社協って何しよう?
- ②地域がわかるマップづくり
- ③認知症サポーター養成講座
- ④ふれあいいきいきサロンって楽しいよ
- ⑤介護保険が変わると、私たちの暮らしはどうなるん?
- ⑥かまこさんのお悩み解決～成年後見制度って何～
- ⑦映画上映会



講座時間：30分～1時間程度  
料 金：無料

## 成年後見制度 Q&A

**Q** 被後見人の不動産を管理する場合、注意することはありますか?



**A** 被後見人の居住用不動産を処分する必要がある場合には、必ず事前に家庭裁判所に「居住用不動産の処分許可」という申立てをして、その許可を得る必要があります。その他の不動産についても、処分の必要性等について十分に検討の上、事前に裁判所に相談し、指示に従ってください。



本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いで、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。ぜひご覧下さい。 <http://kamasyakyo.chobi.net/worldpress/>

2015年 7月20日(月)

最近、嘉麻市内の方へ、「おめでとうございます!宝くじがあまりました。」という海外からの手紙が届いています。

この手紙には、返信用封筒や振込用紙がついていて、「賞金を受け取るために現金3000円(5000円もありました)が必要です。封筒に入れて送ってください。」と書かれています。

買ってもしない宝くじをかなり昔に買ったのかもと思わせるような内容が書かれていますので、うっかり現金を送ってしまいそうになるそうです。この手紙の相手に、現金を送っても、それから何も連絡はなく、当選金をもらうことができないもので、詐欺の手口です。

消費生活センターによると、この手紙に返事を送ってしまうと、そこから個人情報情報を流され、また新たな別の手紙が届くこともあるそうです。内容がわからない手紙やなんで自分のところにきたのかなと思う手紙、英語がいっぱい書いてある手紙があったら、まずは、社協にお電話ください。

各地区のコミュニティソーシャルワーカーがご自宅におじゃまして、お話を伺い、手紙を一緒に確認します。お気軽にご連絡くださいね。電話 0948-42-0751

2015年 8月4日(火)

今日は、ホテルパーレンス小野屋で開催された平成27年度市区町村協会長、常務理事、事務局長会議に伺いました。

まずは、実践報告として、本会事務局長の木山が「多様な相談に対応する包括的支援の仕組みについて」をテーマに嘉麻市社協の取り組みを話しました。

市民のみなさまからの疑問「社協って何しよう?」に答えるために、今年度から6つのセンターを作り、相談窓口としての機能を強化したことや2025年を見据えてのこれからの社協活動についての考え方を説明しました。



次に、山口県岩国市社協 錦支部の中村克敏支部長から「地域完結型に向けた新たなネットワークづくり～にしき安心サポートチームの取り組み～」をテーマに実践報告がありました。

個別ケースをださないためのネットワークづくりや全戸訪問しての個別調査、調査後の報告会の重要性について話があり、地域住民の方々や支援団体の強みを生かした地域づくりの大切さを学びました。

その後は、グループにわかれて「現在の地域福祉の動向を踏まえた、社協に必要な視点と今取り組むべき課題について」「地域包括ケアシステムについて」という二つのテーマで分散協議がありました。

今日は、初めてこの研修会に参加させてもらったのですが、地域の職員を対象にした研修会とは違った緊張感があり、社協にしかできない連携や柔軟性について、学ぶことができました。

「読めば答えが見つかるかも」  
社協だよりクイズ

「広報紙えがおを読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券(千円分)をプレゼントします。」

問題

支えあいのまちづくりサポーター養成講座の講演で、アーサー・ピナードさんは「ピカドン」という言葉を使ってみて、何が変わることを実感したのでしょうか。

- (1) 自分の立ち位置
- (2) 自分の考え方
- (3) 自分の価値観

● 応募方法 ①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、9月30日(必着)までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

● 送付先 T80010205  
嘉麻市石崎1143番地3  
嘉麻市社会福祉協議会  
E-mail: tiki@kama.syakyo.com

● 前号のクイズの答え (3)  
介護保険制度の改正によって、これから求められる仕組みは、地域全体で高齢者を支える仕組みでした。

応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

ハンセン病の記事を読んで、胸を締め付けられる思いでした。全国で約1,700人の方が今だに苦しんで日々生活されていることを知りました。  
ハンセン病という病名は知っていましたが、差別があって患者の方がつらい思いをされていることは知りませんでした。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

# かま ボランティア市民活動センター情報

稲築志耕館高校の1年生が市内の福祉施設やサロンなどでボランティア活動を体験しています。今号では、初めてボランティア活動に参加した4名の方に話を伺いました。



梶原 大睦さん

障がい児日中一時支援事業にはじめてボランティアとして参加しました。行く前はイメージがつかめず不安でしたが、実際に活動してみるととても楽しく、温かい気持ちになりました。

これからも障がいを持つ方と積極的に関わりを持ちたいと思います。



岩橋 茉世さん

鴨生第一サロンにボランティアとして初めて参加しました。

実際に活動してみると参加者の方から明るく接していただいて、とても楽しく過ごすことができました。これから自分も積極的に様々な人と関わっていきたいと思います。



井上 柊樹さん

ボランティア活動をするのは初めてでしたが、人と接するのが好きのため、シルバーケア嘉穂のボランティアに参加しました。高齢者の方と最初はどうか接していけばいいのかわかりませんでしたが、徐々に話しかけていけるようになりました。この経験を生かして、またボランティアに参加したいと思いました。



寺西 千春さん

介護の仕事に興味があり今回シルバーケア嘉穂のボランティアに参加しました。初めは、高齢者の方とどう接すればいいのかわ不安でしたが、相手の方からやさしく話しかけてもらえとても楽しく活動することができました。

## 活動の様子



稲築公園の花壇の手入れ



お手玉を使ってレクリエーション



サロンの参加者のみなさんと一緒にラジオ体操

## ボランティア募集・イベント情報

### ①街頭募金ボランティア

10月1日(木)から10月4日(日)までの4日間、市内のスーパーやコンビニエンスストアにおいて実施する赤い羽根共同募金街頭募金のボランティアを募集します。

**活動日** 平成27年10月1日(木)～10月4日(日)  
2時間程度

※活動の時間帯については、実施場所により異なります。

**実施場所** 市内のスーパー及びコンビニエンスストア等

**募集人数** 50名程度

### ②手作りの竹灯籠とキャンドルアート

**\*嘉麻市一夜城まつり\***

一夜城まつりで、嘉穂総合高校大隈城山校の生徒全員で手作りした竹灯籠と千本のろうそくで描いたキャンドルアートが展示されます。国道からメイン会場にかけて設置され、温かく優しい灯りで皆様をお迎えますので、ぜひご来場ください。

**日時** ①平成27年10月24日(土)10時～  
(キャンドルアート点灯18時～)  
②平成27年10月25日(日)12時～

**会場** 嘉麻市中益地区 特設会場(嘉麻市中益36番地)

※25日は、メイン会場において城山校の生徒全員で1年間をかけて集めたリングプルとエコキャップ、また文化祭でのバザー収益金を贈呈するセレモニーも行われます。

お問い合わせ先・お申し込み先：かまボランティア・市民活動センター ☎0948-42-0751



## あの日 生まれた命



著者：NHKスペシャル

出版社：ポプラ社  
「あの日生まれた命」取材班 編

東日本大震災が発生した平成23年3月11日、ごく当たり前の生活を送っていた人たちが突然、命を奪われ、何とか避難した人たちが大切な家族や友人を奪われました。NHK取材班はこの悲劇をきちんと伝えなければならぬという思いで、取材を続けていました。その中で、3月11日に生まれた新しい命にスポットをあて、18人の子と達とそその家族のドラマが描かれています。

阿部花ちゃんのお母さんは、我が子が生まれたその日に、祖母を失い、周囲でもたくさんの命が奪われたことで、3月11日我が子の誕生日だということを明かせなくなりました。生曰だということを抱えて迎えた1歳の誕生日に遠く離れた北海道から小さな椅子を送られてきました。この椅子は、旭川大学の院のゼミが行っている「君の椅子」プロジェクトによるものです。「生まれてくれてありがとう。君の居場所はここにありませんよ。」という思いが込

められています。その思いが、母親が抱えてきた複雑な気持ちを、「素直に喜んでいいのだな」と思えるように変えていきました。

山崎りらちゃんの家族は、産後に過ごすはずだった実家には住むことができなくなり、自宅に戻ることになりました。赤ちゃんを育てる準備も、暖房のための灯油も何もかも足りませんでした。ところが数日後、自宅に大きな段ボールが続々と届き、中には、おむつやティッシュ、カイロなどがぎっしり詰まっていました。それらは、同級生がインターネットで呼びかけた「友人が産まれたばかりの赤ちゃんを抱えて困っています。何でも良いので送ってあげて下さい」のメッセージを見た全国の人々から贈られたものでした。段ボールの中には、手書きの手紙が何通も入っていました。

東日本大震災ではたくさん命が奪われてしまいました。そんな過酷な状況で生まれてきた小さな命は、その場にいた人々に生きる勇気を与えていたのではないかと思います。命のほかなさと尊さを現地の方の言葉を通じて感じることのできる本でした。

(ごじょう)

## 10月の総合相談

法律相談は予約が必要です。先着順となっておりますので、お早めにお申し込みください。

### 法律相談

とき：10月1日(木) 13:00~16:00  
ところ：山田ふれあいハウス

とき：10月15日(木) 13:00~16:00  
ところ：稲築住民センター

### 心配ごと相談

とき：10月14日(水) 13:00~15:00  
ところ：稲築住民センター

とき：10月28日(水) 13:00~15:00  
ところ：稲築住民センター

嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

## 炭鉱の記憶

No. 102

左下の写真は、下白井南ヶ丘ボタ山が作られているところです。写真を提供していただいた坂本弘之さん(下白井西在住)にお話を伺いました。

ボタ山はもともと小さな丘があるところに作られていたそうです。ボタをポケットと呼ばれる貯蓄場に溜めてボタ捨箱に入れ、スキップと呼ばれる巻き上げ装置でワイヤーを巻き上げ、頂上に着いたら自動的に箱の蓋が開いて落とされる仕組みでした。

坂本さんから見せてもらった資料によると、次々と出現したボタ山は最盛期には筑豊地区で296もぞびえ立ち、活気づく「炭鉱の象徴」だったそうです。そして、筑豊を訪れた多くの文化人たちは、ボタ山とにぎやかな炭鉱町に惹かれ、絵画や小説などに登場させたそうです。

また、鉄道が開通するまでの間、下白井抗より、石炭を積んだトロッコを馬が引いて、下白井村下を通り、稲築大西浦山野へ白門に運び船で輸送していたそうです。

坂本さんのお宅には、当時使われていた道具や地図、写真がたくさん保管されていました。土なども当時のままに保管されていて、長い間使っていたのだと覗きました。何もないと山が運ばれてきて、たたくさんの人がそこで働いていたのだと実感しました。



炭鉱時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。

☎0948(42)0751

# 山田ふれあいハウスからのお知らせ



■子育てリユースセンターに、ベビーベッドを設置しました。  
赤ちゃんや小さな子どもさんを連れて、お越しいただいた方々が安心してセンターを利用できるようにベビーベッドを設置しました。  
ぜひご利用いただいて、ゆっくと子育て用品をご覧ください。

■衣替えの時期となります。  
秋冬物へと入れ替えの準備をしています。ご家庭で使わなくなった衣服やマフラー、手袋などがありましたら、ご協力お願いします。  
また、ベビーカーやベビーチェアなどの大型の用品も受け付けておりますので、お寄せください。

連絡・問い合わせ先／山田ふれあいハウス 嘉麻市上山田502番地6 TEL 0948-52-1847

嘉麻市  
社会福祉協議会指定  
葬祭場紹介

## 飛鳥会館 南斎場

嘉麻市漆生298-1 ☎ (0948) 42-4241



飛鳥会館でご葬儀をされるご家族のうち、8割の方が事前相談に来館されています。葬儀に関する疑問、予算等気兼ねなくお尋ねください。  
家族葬にあわせたプランもご用意し、スタッフが心を込めてお手伝いいたします。  
また、当会館のお斎(とき)等は、パドドゥール・コトブキの本格料理をご用意しております。



葬儀申し込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。

嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、飛鳥会館 南斎場を含め、市内に8ヶ所あります。

きど葬祭やまさ碓井斎場…………… ☎62-4499	かほ葬祭 あじさい会館…………… ☎62-5566
ひさつね会館…………… ☎52-0758	善光会館 稲築会場…………… ☎83-5000
いすや会館…………… ☎57-4444	おかむら葬祭岡村会館…………… ☎42-4420
セレモニーホールおおつか…………… ☎52-1212	

親族 〔筑紫〕 故 箕田 英正 様	親族 故 松藤 嘉子 様	親族 故 松田 清志 様	親族 故 尾田 政夫 様	親族 〔木城〕 故 松本 アキヨ 様	親族 〔尾浦第二〕 故 辻 儀一 様	親族 〔熊ヶ畑第二〕 故 佐藤 和子 様	親族 〔枝坂〕 故 佐藤 吉晴 様	親族 故 白土 美喜子 様	親族 〔平第二〕 故 岩橋 美知子 様	親族 〔鴨生第二〕 故 岩橋 保輝 様	親族 故 平川 淳治 様	親族 〔山野第二〕 故 石橋 千鶴 様	親族 〔口春〕 故 中山 隆之 様	親族 〔漆生中央〕 故 大里 慎治 様
-------------------------	-----------------	-----------------	-----------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------	-------------------------	------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------	---------------------------	-------------------------	---------------------------

●香典返し  
7月1日～7月31日受付分  
香典返し・寄附

みなさまの善意、心より厚く、お礼申し上げます。

親族 〔藻野〕 故 梶原 初恵 様	親族 〔榎木〕 故 藤井 尚美 様	親族 〔東馬見〕 故 大塚 サダ子 様	親族 〔下益〕 故 坂口 ヨシ子 様	親族 〔三菱第二〕 故 金森 美知子 様	親族 〔二般寄付〕 泉河内 高倉 円次 様	親族 〔子育てリユース〕 嘉穂の名水愛好者一同 様	親族 〔アルミ缶〕 漆生中央 田中茶舗 様	親族 宮若市 大友 あゆな 様	親族 大隈 大里 理子 様	親族 中山田上 小野 紀子 様	親族 下白井 瀧本 里美 様	親族 〔寄附〕 梶原 初恵 様	親族 〔桑野〕 故 梶原 喜正 様	親族 〔榎木〕 故 藤井 尚美 様	親族 〔東馬見〕 故 大塚 サダ子 様	親族 〔下益〕 故 坂口 ヨシ子 様	親族 〔三菱第二〕 故 金森 美知子 様
-------------------------	-------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------	--------------------	------------------	--------------------	-------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------



**あなたの会費が、社協の地域活動を支えています**

会員として、次の方々に  
ご加入いただきました。  
(敬称を省略させていただきます)

7月1日～7月31日受付分

〔漆生本村〕漆生本村行政区(三十九口)

〔漆生老松〕平位晴子

〔漆生南部〕西田幸子、聖匠会、束村芳枝、桑名多恵子、松田立道、松宮憲司、濱田和義、大野順子、篠原信明、宇野孝道、宇野洋子、中村妙子、石山洋子、小山信子(二口)(株)上瀧組(五口)、三省、西岡博子、井上キサエ、茅嶋サツエ、諫山清子、小林喜久也、馬場廣喜、板木政俊、宮崎ミチ子、松浦恒幸、竹田美代子、小陳勝美、高山きぬよ、佐々木繁、山口訓弘

〔山野第一〕赤坂秀一、永富健二、辻田篤志、谷口満、森山清志、江藤ヤヲ子、森山博、辻田鈴子、石川武士、辻田光之、立藤カズ子、山内龍二、赤坂タケ子、岩崎マチ子、里村百合子、藤井治韶、緒方輝躬、柴田スミエ、荻野久太、熊谷萌、朝倉吉明、熊谷香壽美、安藤三津雄、山本孝俊、辻田元徳、田村強、中村俊治、吉水富男、桑野健次、仲西朋子、松浦繁幸、柴田英生、辻田正治、鳥井実、有田栄公、西田修、森原正博、藤原哲資、松岡ミチ子、田原ミヨ、平井義久、白川秀、平山伊保枝、田中尊志貴、渋谷茂、松岡伝、平野嘉代、西田始、山本千鶴、福澤秀久、北富敬三、福澤トモエ、福澤清隆、福光一男、大塚秀樹、石井直彦、永富康嗣、永富信茂、福光ワカ、中尾美一、辻田廣光、伊藤和子、高木和夫、永富和代、水間久二、石川栄子、木村拓也、飯田弘子、角谷正美、半田清美、金澤

平一、古江雅彦、河村紀生、田坂勝信、梅井史枝、江口典蔵、満島憲幸、松岡政明、平嶋豪、中原千歳、太田札五郎、新原正信、藤村節子、石川紀子、長嶋正雄、熊谷國夫、石崎慶太、峰啓子、瓜生義晴、馬瀬順二、山本操、西田笙子、甲斐満、森高喜美子、石川國子、西田義弘、西田敏行、中並文子、中並昌之、岡部由美子、西田安宏、西田利幸、和田英樹、和田正行、藤春正人、藤春清子、藤春英明、藤春真祐、藤春諒一、藤春信子、藤春久雄、藤春貴生、牧節子、永水悟、赤間陽一、國米スエ子、山下光吉、大井盛政、西田幸子、山内日出男、大井慎二、安川明、楠田元徳、市村祐子、山本多喜夫、26組(三口)、29A組(十九口)、宮崎省吾、田中澄夫、砂川由弘、吉田晃、西原正俊、大坪正明、山本喜久雄、山田和隆、坂本幸敏、長谷尾勝正、福澤光子、平畑和也、越智輝幸、平山一、中西大典、永富康弘、麻生昌彦、金丸賢二、洪田作太郎、太田孝、片岡晋、北谷光則、佐田スエ子、和田俊孝、三苦正、樋口誠、金堀隆、野見山勇雄、坂田直樹、木下幸治、青野廣太、坂口栄喜、林雅幸、吉田裕二、境茂俊、坂田恵太、永田紀美代、半田信博、松岡央、片峰伸二、吉田徹、永富正

〔山野第二〕あかね合同土地家屋調査士事務所(五口)

〔鴨生第二〕鴨生第二行政区(二十口)、飯田千鶴美(二口)、富崎政勝(二口)

〔平第一〕一組(二口)、大和義一、西田公一郎、西田明、白土良一、永水泰典、西田道子、田口正志、森山肇、永水寿徳、大山松雄、松本俊治、坂本浩之、西田剛、佐藤明子、浅田修一、松本政喜、吉村浩子、永水秀樹、加藤正子、松隈慶造、藤内俊夫、佐原謙一、佐伯

純子、加来毅、加来公生、馬田忠義、高田久志、佐竹吉実、松本明美、深見隆伸、越智初、野田エミ子、西田健、永水政子、野村京子、森山祥弘、平井むつ子、平祥司、大山忠男、眞杉チヅル、西田静、松下正良、白土恵一、西田恒義、梶原輝雄、西田久利、永水計親、永水博、小林英治、永水正博、西田家理、西田武次、永水民生、永水幸子、永水美法、永水雅史、藤原光一、中野君子、西田寛信、西田義勝、林トシ子、藤崎正昭、西田初、篠森鹿夫、野見山昱子、阿部敏子、岡村勝子、西田俊夫、小峠フサエ、西田穂次、横山秀雄、林繁樹、清家正章、大久保久子、宇根岡マスミ、田中道子

〔上白井上〕犬丸壽美子

〔下白井西〕瀬戸禮子

〔熊ヶ畑第三〕大田小夜子、大田早子、平嶋勉、大田シズ子、大田修、大田克彦、大田とし子、大里広、大田愛子、大田英次

〔百々谷〕龍忠雄、龍恒子(二口)、龍美恵子(二口)、鬼塚繁、村上ユキ子、毛利栄子、児玉ふみ子、児玉孝幸、長田京子、長田勝、中園晴美、中園千歳、小田博幸、古賀マサ子、田中清美、篠原喜代子、日野和義、西村信也、西村久美子、西芳子(二口)、武本ハルエ

〔尾浦第一〕吉丸モモエ

〔尾浦第二〕吉丸公隆、吉丸慎也

〔天神〕中野達雄、高橋武士、岩崎洋子、岩崎義治、鎌田ヨリ子、伊藤和子、井上智子、的野親雄、岡村智恵子、赤木トヨミ、城丸政治、田上真由美、江藤富美子、和田悦子、松岡幸子、島田睦男、島田久子、渡辺ヤチヨ、木下俊明、吉国厚子、鳥居香代子、松岡一彦、松岡由美、武谷節夫、城丸貴久枝、井上益子、松岡弘城、米澤八重子、鷺谷

純子、加来毅、加来公生、馬田忠義、高田久志、佐竹吉実、松本明美、深見隆伸、越智初、野田エミ子、西田健、永水政子、野村京子、森山祥弘、平井むつ子、平祥司、大山忠男、眞杉チヅル、西田静、松下正良、白土恵一、西田恒義、梶原輝雄、西田久利、永水計親、永水博、小林英治、永水正博、西田家理、西田武次、永水民生、永水幸子、永水美法、永水雅史、藤原光一、中野君子、西田寛信、西田義勝、林トシ子、藤崎正昭、西田初、篠森鹿夫、野見山昱子、阿部敏子、岡村勝子、西田俊夫、小峠フサエ、西田穂次、横山秀雄、林繁樹、清家正章、大久保久子、宇根岡マスミ、田中道子

〔白井西〕伊藤久子

〔熊ヶ畑第三〕大田小夜子、大田早子、平嶋勉、大田シズ子、大田修、大田克彦、大田とし子、大里広、大田愛子、大田英次

〔百々谷〕龍忠雄、龍恒子(二口)、龍美恵子(二口)、鬼塚繁、村上ユキ子、毛利栄子、児玉ふみ子、児玉孝幸、長田京子、長田勝、中園晴美、中園千歳、小田博幸、古賀マサ子、田中清美、篠原喜代子、日野和義、西村信也、西村久美子、西芳子(二口)、武本ハルエ

〔尾浦第一〕吉丸モモエ

〔尾浦第二〕吉丸公隆、吉丸慎也

〔天神〕中野達雄、高橋武士、岩崎洋子、岩崎義治、鎌田ヨリ子、伊藤和子、井上智子、的野親雄、岡村智恵子、赤木トヨミ、城丸政治、田上真由美、江藤富美子、和田悦子、松岡幸子、島田睦男、島田久子、渡辺ヤチヨ、木下俊明、吉国厚子、鳥居香代子、松岡一彦、松岡由美、武谷節夫、城丸貴久枝、井上益子、松岡弘城、米澤八重子、鷺谷

純子、加来毅、加来公生、馬田忠義、高田久志、佐竹吉実、松本明美、深見隆伸、越智初、野田エミ子、西田健、永水政子、野村京子、森山祥弘、平井むつ子、平祥司、大山忠男、眞杉チヅル、西田静、松下正良、白土恵一、西田恒義、梶原輝雄、西田久利、永水計親、永水博、小林英治、永水正博、西田家理、西田武次、永水民生、永水幸子、永水美法、永水雅史、藤原光一、中野君子、西田寛信、西田義勝、林トシ子、藤崎正昭、西田初、篠森鹿夫、野見山昱子、阿部敏子、岡村勝子、西田俊夫、小峠フサエ、西田穂次、横山秀雄、林繁樹、清家正章、大久保久子、宇根岡マスミ、田中道子

〔上白井上〕犬丸壽美子

〔下白井西〕瀬戸禮子

〔熊ヶ畑第三〕大田小夜子、大田早子、平嶋勉、大田シズ子、大田修、大田克彦、大田とし子、大里広、大田愛子、大田英次

〔百々谷〕龍忠雄、龍恒子(二口)、龍美恵子(二口)、鬼塚繁、村上ユキ子、毛利栄子、児玉ふみ子、児玉孝幸、長田京子、長田勝、中園晴美、中園千歳、小田博幸、古賀マサ子、田中清美、篠原喜代子、日野和義、西村信也、西村久美子、西芳子(二口)、武本ハルエ

〔尾浦第一〕吉丸モモエ

〔尾浦第二〕吉丸公隆、吉丸慎也

〔木城〕長岡峰雄、岩見由紀子、有山和子、大塚憲治、大塚静、伊藤ミツ子、且元ミヨ子、田中玲子、永富久子、石原口節子、江藤ヒサエ、竹中ミツ子、梶原セキ子、佐々木チドリ、松岡孝司、美林孝勝、山田昌郎、井上達雄、藤井逸志、岡本國夫、宮本秀喜、和田照代、山本賀世子、藤嶋泰仁、日高文雄、林田正敏、中野勝哉、中川尋章、小島律子、岸川太美峰、大里景子、梅林英夫、松尾明江、大津雅郁、重松紀久子、宮本シズ子、蒲原とも、尾田卓夫

〔三菱第二〕岡崎久美子

〔ゆうひが丘〕梶原賢一、梶原久美子

〔長野〕長野シマエ

〔中山上〕高島正人、阿志賀京子、坂口繁、吉永政雄、吉野弘、井手政義、矢野陽子、皆川浩樹、平塚弘一、中村嘉男、田中トヨコ、高木康雄、浅田勉、岩下隆、河津マシミ

〔中山下〕松岡和枝

〔石ヶ崎〕高島良子、皆川アキエ

〔中益〕伊藤幸雄、友清久代、真崎房子、ふれあい、いきいきサロンなかま

〔五日町〕中島剛一、中島暁子

〔上牛隈〕小野智一

〔嘉穂才田〕田中知子、古野洋弓、大屋由美

〔大力〕松岡佳子

〔芥田〕溝口邦生、溝口由紀子、溝口まり絵

〔下牛隈〕熊本正夫

〔白田市〕櫻木和子

百々谷 吉元 悦子  
中央 明石 睦則  
石ヶ崎 渡邊美千代  
上西郷 山口 春雄  
九郎原 匿 名  
鴨生第一行政区 匿 名  
ふれあいいきいきサロン なかま  
石ヶ崎シニアクラブ なかま  
嘉麻市身体障害者福祉協会 稲築支部  
漆生南部 聖匠会  
〔リンクフル〕  
漆生南部 西田 幸子  
鴨生北町 山崎 恵子  
下宮 三好 邦央  
木城 山田 昌郎  
新原 金原 照子  
石ヶ崎 渡邊美千代  
古河 甲斐 良子  
中益 匿 名  
下牛隈 川原 咲  
下牛隈 川原 梨花  
山野第一福祉部会 川原 梨花  
嘉麻市福祉事務所保護課 川原 梨花  
つばさ学園 川原 梨花  
グリーンエコ班 川原 梨花  
石ヶ崎シニアクラブ 川原 梨花  
〔古切手〕  
中益 匿 名  
下牛隈 川原 咲  
下牛隈 川原 梨花  
飯塚市 匿 名  
嘉麻市役所生涯学習課 匿 名  
嘉麻市役所税務課 匿 名  
嘉麻市福祉事務所保護課 匿 名  
教育ナビゲーション(株) 匿 名  
下山田郵便局 匿 名  
JAふくおか嘉穂南部 匿 名  
グリーンセンター 匿 名  
古河 塚原 京子 様



# ふるさとへの手紙 No.115



北九州市  
在住  
繁木 千春さん  
(旧姓 田中)  
千手出身

## 「還暦」

今回、お話を頂いたのも記念かな  
と思い投稿させて頂きました。

18歳まで(旧嘉穂町千手)で育ち、  
短大卒業後、結婚まで地元で働きま  
した。結婚後は北九州に住み主人の  
転勤で千葉に8年、その後北九州に  
戻り現在に至っています。

人生の1/3は嘉麻で育ち、小中高と  
通った学校は、もうありません。学  
校の跡地や校舎はまだ残っており、  
廃校になっている場所を帰省する  
時に通ると、その頃の事がよみがえ  
ります。

千葉へは子どもが小学2年生と  
年長の夏休みに行ききました。全然未  
知の町で右も左もわからず、本当の  
家族4人だけの核家族になりました。  
主人が会社に行き、夏休みが終  
わり子ども達も新学期が始まる頃  
には、私も残った荷物のダンボール  
の片づけが終わわり、ホッとすると同  
時に千葉に引越してきました。何  
があっても家族で解決しないといけ  
ないということで、家族仲良く団結  
力が深まった様に思います。

今、考えると転勤族は仕方ないの  
かも知れませんが、子どもたちは転  
校生として色々不安や嫌な事もあつ  
たと思いますが、元気にとけ込んで  
くれた事に感謝しています。同じ日  
本なのに夜明けと日没の時間が約一  
時間違います。冬は夕方4時には暗  
くなっていますし、地震も多く初  
めの頃はどうすればいいのか分から  
ず慌てているだけでした。九州に帰  
ってきて自然災害も少なく食べ物も  
美味しく安い、住み易い土地だと実  
感しています。

10年程前に、県外に結婚して出た  
友達に帰省するのに合わせ数人の  
幼なじみの同級生に連絡を取り集  
まった時、他の友達とは意外と車で  
行き来出来る距離に住んでいて、ク  
ラスも違っていたし、30年ぶりの再会  
でもあったのに、幼い頃の面影が残  
っていて、すぐに〇〇ちゃんや当時の  
頃にタイムスリップしてしまいました。  
。その後は昔話に花が咲いて、  
以来、年に数回会っています。子ども  
のことや親の介護のことや自分達の  
将来のこと、何でも相談したりして  
助かっています。これから先も、健康  
と家族と友達は最後まで決してな  
くさないように大切にしていきたい  
と思います。

ふる里は、住んでいると当然の景  
色かも知れませんが、緑豊かで水が  
澄んでいて、今のままですと残し  
て欲しい風景です。  
今回投稿させて頂くことで、今ま  
での事を微笑んだり涙ぐんだりし  
ながら振り返る良い機会になりました。  
。ありがとうございます。

## 編集後記



表紙からp3までに掲載  
している「支えあいのまち  
づくりサポーター養成講  
座」に参加されたみなさん  
の真剣な眼差しに、少数者の側にた  
った問題と一緒に考えることの大切さ  
を教えてくださいました。あと5回あり  
ますので、ぜひご参加ください。(きはら)



フォローアップ講座  
では、11名の受講者の  
みなさんと一緒に私も  
たくさんのお話を学ば  
せていただきました。支え合う地域  
のサポーターとしてこれからも一  
緒に頑張っていけたらいいなあと思  
います>(\*^\_^\*)(みぞくち)



アーサー・ビナードさん  
の話を聞き、言葉の  
持つ力を深く感じまし  
た。普段何も考えずに  
用いている言葉一つひとつの立ち  
位置をもう一度考えていくきっかけ  
になりました。(たけがわ)



稲築志耕館高校の生  
徒たちが、色々な場所  
でボランティア活動をし  
ているところを取材さ  
せてもらいました。最初は、みなさん  
緊張されている様子でしたが、高  
齢者の方や地域の方と楽しくそうに  
活動されていました。(あかま)



ボランティア活動中  
の高校生を取材しまし  
た。初めてのボランティ  
アで、不安を抱いた生  
徒さんもいたようですが、活動の後  
は充実した顔をしているように感じ  
ました。(まる)



炭鉱の記憶の取材で  
は、坂本弘之さんにポ  
タ山について教えて頂  
きました。当時使ってい  
た道具を見ると、懸命に働いてこ  
られた方々のおかげで炭鉱が栄えた  
のだと思いました。(ごうはら)



ハンセン病につい  
て、事前学習を行いま  
したが、実際に自分の  
目で見て聴くことは、感  
じ方も違いました。市民のみなさん  
と一緒に学ぶことができ、理解する  
事や伝えることの大切さを考える  
時間となりました。(おがわ)



日中一時支援事業夏  
の交流会を、初めて嘉麻  
北事業所で開催し、会場  
作りや出店の看板作成、  
当日の調理などスタッフ一丸となつて  
取り組みました。子ども達の笑顔を  
みると、疲れもとび、楽しい夏の思い出を  
一緒に作る事ができました。(かじ)

## コラム 交差点

### アーサー・ビナード氏の話聞いて

中学校以降の平和教育は今後変わるの  
ではないか。そのくらい目からうろこが落  
ちる話でした。広島と長崎のウランとプ  
ルトニウムの爆弾原料の違い、戦時中に日  
本でも原子爆弾を作ろうとしていたことは、  
ここ最近クローズアップしてきています。  
去年のこの時期の朝日新聞で、今のアメ  
リカの教科書の約半分は原爆の死者数を  
載せていず、掲載分でも日本発表の約半  
数となっていると報道されていました。す  
ぐに日中間の「南京大虐殺」を思い出しま

した。加害国と被害国との間では半永久  
的に共通認識はできないのでしょうか？  
小倉は意図的な回避だったのか、ソビエ  
トの日本侵略をアメリカ力はどこまで把握  
していたのか、と同様に更なる確証作業は  
続くでしょう。

しかし2時間半も通して話ができるア  
ーサーさんはとっていただいたら、67年生まれ  
で私と同じです。スゴイ。9月のアメリカ  
での講演の反応に期待しています。日本語  
に魅せられて詩人となったアメリカ人の里  
帰り講演ですから。

(熊ヶ畑 広瀬 公彦)